

◆三十六番（新谷紘一）（登壇）高席からお許しをいただきたいと思います。

議長並びに同僚議員のご配慮をいただき、質問をさせていただく機会をいただきまして光栄に存じます。

次に、リニア中央新幹線について知事にお伺いをいたします。

リニア中央新幹線の整備促進に関しましては、荒井知事は昨年六月、三重県の鈴木知事と大阪府の新井副知事を伴って首相官邸を訪問され、沿線地方公共団体がリニア中央新幹線の名古屋－大阪間の前倒し開業にできるだけ協力できるようにとの観点から、三重・奈良ルート及び駅位置の早期確定などについて安倍内閣総理大臣に直接要望されたとお伺いしております。その後、八月に政府が取りまとめた未来への投資を実現する経済対策において、二十一世紀のインフラ整備として財政投融资の手法を積極的に活用・工夫することにより、リニア中央新幹線の全線開業を最大八年間前倒しすることが明記され、今年度と来年度で一・五兆円ずつ、総額三兆円のJR東海への融資が予定されております。これは財政投融资の長期・固定・低利の貸し付けを活用することで、東京－名古屋間開業後のJR東海の経営体力回復期間を短縮し、連続して名古屋－大阪間の工事に着手し全線開業までの期間の前倒しを図るものでありますが、私はこのような全線開業の前倒しに向けた具体的な動きが出てきたことを本当にうれしく思います。本県にとりましては、この動きを踏まえ三重・奈良ルートと駅位置を早期に確定させることが最も重要な事項であります。気を引き締めて取り組みを進めていくことが大変大事であります。ルートについては災害に強い国土づくりの、いわゆるリダンダンシーの観点から整備計画どおり東海道新幹線とできる限り離して、奈良市附近を経過地とする三重・奈良ルートとすることを繰り返し主張しておきます。

また、駅位置については奈良県の将来をしっかりと踏まえ、観光や産業振興など地域の振興につながることはもちろん、その利便が紀伊半島全域に広がるような交通結節性の高い位置とする必要があります。ルートと駅位置の具体的な確定のために環境影響評価手続に早期に着手される必要があります。駅位置とルートが確定しますと、駅周辺のまちづくりやアクセスの検討など具体的、計画的に進めることが可能となります。

そこで、県として三重・奈良ルート、駅位置の早期確定に向けどのように取り組まれようとしているのか、知事の所見をお伺いしておきます。

◎知事（荒井正吾）（登壇）三十六番新谷議員のご質問がございました。

第一番目は、リニア中央新幹線について、今後の取り組みについてのご質問でございます。

議員お述べのとおり、昨年八月の経済対策に、財政投融资の活用・工夫によりリニア中央新幹線の全線開業を最大八年間前倒しするとの方針が示されました。早速国において財務面や法制面の手当てがなされ、昨年十一月と本年一月にJR東海に対する貸し付けが実施されたわけでございますが、JR東海がこの措置を評価しており、名古屋－大阪区間の

完成前倒しが実現する上で非常にありがたい措置と受けとめております。これらの措置によりまして、平成三十九年の東京―名古屋間の開業後、間を置かず速やかに名古屋―大阪間の工事に着手されるものと理解をしておりますが、この工事が確実に、円滑に実施されるためには事業主体でございますＪＲ東海にできるだけ早く環境影響評価の手續に着手していただき、ルート、駅位置を確定していただく必要がございます。環境影響評価なしにルート、駅位置の確定はないということでございます。

このため本県では、ＪＲ東海が将来実施されます環境影響評価を見据えまして、県内の動植物の生息状況等について先行的に調査を行っているところでございます。将来、ＪＲ東海から協力を求められた場合に十二分な役割を果たせるよう県としてしっかり準備を進めていきたいと考えております。また本県では、こうした取り組みとあわせまして、三重県、三重・奈良両県の経済界と一体となった機運の醸成と国等への働きかけ、要望活動を展開しておりますので、新年度はさらに大阪府や関西経済連合会との連携強化を図りまして、一日も早い環境影響評価着手と三重・奈良ルートの確定に向けた取り組みを強化してまいりたいと思っております。